

173

2020.9.20

長崎郵趣

杉亨二と国勢調査
伊東弘章

長崎とゆかりの

近代統計学の祖「杉亨二（すぎ こうじ）」先生

杉亨二氏は明治4年、太政官正院に設置された政表課（統計局の前身）の大主記に任ぜられたことから初代の統計局長と言われ、我が国の統計学の開拓者にして、近代統計調査の先駆者であり、統計教育の先覚者であることから「日本近代統計の祖」と称されています。

長崎で生まれた杉亨二氏は、江戸に出て勝海舟と出会い、勝塾の塾頭となります。その後、江戸幕府に仕え、明治維新後も徳川家に仕えるなか静岡藩沼津にて人口調査を実施しましたが、一部地域での調査と集計にとどまりました。杉氏の能力を買っていた明治政府より声がかかり、明治12年、現在の山梨県で国勢調査の

試験調査とも言える「甲斐国現在人別調」を実施しました。杉氏はこの調査を全国に広げたいと努力しましたが、財政問題や日露戦争の影響等のためなかなか実施に至らず、大正9年、遂に第一回国勢調査が実施されることとなり、杉氏は国勢調査準備委員会委員として活動していましたが、国勢調査が実施される目前の大正6年に90歳で亡くなりました。その杉先生の功績を称えた碑（胸像）が長崎公園（長崎市）内に建っています。



国勢調査 100年
令和2年9月1日

国勢調査 100年 (1920-2020)



「杉さん うしろの像は
わしじゃ(杉亨二) 長崎公園におるぞ 国勢調査 頼む!!」



国勢院と原敬（上）、大隈重信（左）、杉亨二（右）

杉亨二と国勢調査

伊東 弘章

第1回調査は大正9年に行われ、今回の調査（9月14日～10月7日）は21回目に当たり、実施100年の節目を迎えます。杉亨二は、我が国の統計学の開拓者、近代統計調査の先駆者、統計教育の先覚者であることから「日本近代統計の祖」と称されている。

長崎で生まれた杉亨二は、江戸に出て勝海舟と出会い、勝塾の塾頭となる。その後、江戸幕府に仕え、維新後も徳川家に仕えるなか、静岡藩沼津にて人口調査を実施。明

治12年、現在の山梨県で国勢調査の試験調査。杉はこの調査を全国に広げたいと努力するが、財政問題や日露戦争などで実施に至らず。大正9年、遂に第一回国勢調査が実施されることとなる。

杉は国勢調査準備委員会委員として活動するも、調査実施目前の大正6年に90歳で亡くなった。杉亨二は国勢調査の実施に貢献した近代の偉人として顕彰され、長崎公園（長崎市）に胸像の碑がたっています。



国勢調査100年 (1920-2020)



昭和60(1985)年、自治会の推薦を受け国勢調査員として、調査範囲内の各戸を訪問し調査活動する。

100th Anniversary of Population Census 国勢調査100年



851-2126
長崎県西彼杵郡
伊東弘章様

静岡県にもゆかりの杉亨二、杉は、明治維新とともに駿河（静岡県）に移住し、そこで人口調査に取り組みました。その際に、幕末・維新期の侠客として名を馳せた清水 次郎長とも出会っている。